

## ■ 花葉会賞受賞記念講演

# 私の花育種－神様の隣の席を目指して－

山 口 聰

タイトルの「神様の隣の席」というのは右側の席をあらわします。イギリスを旅した折に、育種家というものは、「新しい品種(いきもの)」を作り出すということで、神様に次ぐ席である右側に座ることができる、神様の次に偉い人たちなのだとと言われたことがあります。

育種家としての自分のルーツについてお話ししたいと思います。

### サクラソウの時代

私の先生は学部時代は岩佐亮二先生、大学院では中尾佐助先生で、遺伝育種学だけではなく進化生物学など幅広く学んでいくことになりました。

最初はサクラソウの染色体を数えていました。これは大輪朝顔の大家であり、サクラソウの育種家でもある中村長次郎さんからの依頼によるものです。この研究は最近まで続きロシアのアルタイに自生するプリムラの調査もおこないました。

その後、試験場（野菜茶業試験場久留米支場）にはいった際、サクラソウをやっていたおかげで図書館の蔵書に幕末の植木屋・染植重の伊藤重兵衛が自分で品種を控えた手控え帖（手帳）を見つけました。それまで誰も気づかなかつたものです。この『桜草名寄控』は万延元年（1860）に書きはじめられ、途中から明治22年（1889年）と年代が変わります。これは後代の伊藤重兵衛が書き足したもので、全部で300近くの品種が載っており、サクラソウの品種成立時期のキーとなります。これを買い集めたのは久留米支場の初代支場長の熊澤三郎氏です。

あそびで、オブコニカの葉挿し試験などもやっていました。

大学院時代にはタンポポの系統分類から推測される畑作の発展・拡散について研究しておりました。

### ツツジの時代

試験場にはいり、ツツジの交配研究を行う過程で、ツツジに片側交配不和合性があることを発見しました。この研究を続けていくうちに、節間雑種であるヒラドツツジ‘天祥’×サクラツツジの交配に成功しました。

その後、クルメツツジ全品種の画像データベースのとりまとめ、キリシマツツジの品種特性のとりまとめをおこないました。九州にいるときはミヤマキリシマなど九州の自生ツツジ、四国（愛媛大学）に移ってからは四国特産であるトキワバイカツツジの調査・保存をおこなっています。

トキワバイカツツジは香りが強く、芳香性アザレアの育種資源として非常に貴重なものです。

この間に第一回花卉遺伝資源探索でネパールに *Rhododendron* と *Lilium* の遺伝資源収集にいきましたが、花か種子のどちらかの時期しか行ける予算がないということで種子の時期にいくことになりましたが、今までの経験をもとに無事、目的のものを得ることができました。

### チャの研究

野菜と茶の試験場が合併した際、運悪くツバキの研究をしていたため、チャの研究室にいかされました。

このときはマーカーを利用した選抜で選抜時間を大幅に短縮することができ、その過程でアジアの茶が3系統に分けられることがわかりました。また日本在来の茶のルーツが浙江省にあることがわかりました。この研究を元に学生が中国側からの目線で調査をおこない、浙江省から一番最初に北九州に入ってきたことがわかりました。

### ツバキの時代

ツバキ属は香りセンサーによる分類で節がわけられることがわかりました。

サザンカの花粉発芽阻害反応によってもツバキ属をわけられます。

また発芽前の種子を半切することで播種前に耐病性などの特性解析などをおこないました。

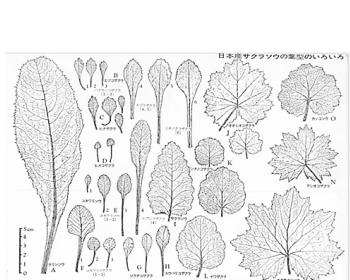
### 育種した品種

育種したツツジのうち筑紫紅（農林2号）は練馬区にある平成つつじ公園に大きな植え込みがあります。

（文責：編集部）

図版は講演者データより

サクラソウの時代（学部から大学院）



## 伊藤重兵衛の手稿本「桜草名寄控」の発見・紹介



## アルタイでのプリムラ調査

## ツツジの時代（久留米時代）

Table 4 The combinations showing the tendency of unilateral incompatibility in the interspecific hybridization of Japanese rhododendrons.

| Cross combination |                 | Capsule set |
|-------------------|-----------------|-------------|
| A                 | B               | A×B×A       |
| R. metternichii   | R. macrosepalum | 20 0        |
| R. obtusum        | R. japonicum    | 33 0        |
| R. kiusianum      | R. japonicum    | 81 0        |
| R. ripense        | R. japonicum    | 67 0        |
| R. decandrum      | R. macrosepalum | 20 0        |
| R. decandrum      | R. scabrum      | 60 4        |
| R. decandrum      | R. tosaense     | 72 6        |
| R. kiusianum      | R. macrosepalum | 95 0        |
| R. kiusianum      | R. scabrum      | 96 36       |
| R. tosaense       | R. macrosepalum | 100 14      |
| R. simsi          | R. ripense      | 100 33      |
| R. serpyllifolium | R. ripense      | 13 0        |
| R. serpyllifolium | R. tosaense     | 13 0        |

片側交配不和  
合性の発見

節間雜種の  
作出

Bull. VOCRS, Ser. C (KURUME), No.9 : 59 ~ 67 (1986)

Yanaguchi & Hirata : Pivotal Hybrid Plant between Sects. *Tsutsui* and *Brachycalyx* Anreca in the Subgenus *Tsutsui*. 65

65



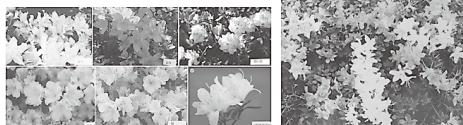
Fig. 1 Calyx shape of seed parent (*R. scabrum* cv. 'Tenshou') (left), hybrid (center) and pollen parent (*R. tashiroi*) (right).

## ツツジの思い出

## 久留米ツツジ全品種の画像データー

## 九州自生ツツジの調査

## ベースの取りまとめ



## 霧島躑躅名寄せの整理／ノート：

### データの保存

#### 絶滅危惧特産ツツミ（トキワバイカツツミ）の保存と増殖



## ツバキの時代（久留米、松山～）

